

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-506079(P2004-506079A)

【公表日】平成16年2月26日(2004.2.26)

【年通号数】公開・登録公報2004-008

【出願番号】特願2002-518339(P2002-518339)

【国際特許分類】

C 0 8 G 69/36 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 L 77/00 (2006.01)

D 0 1 F 6/80 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 69/36

C 0 8 K 3/00

C 0 8 L 77/00

D 0 1 F 6/80 3 2 1 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成17年9月12日(2005.9.12)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項1】 少なくとも次のモノマー：

(I) 略号Aで表わされる少なくとも1種の二官能性モノマー；

(II) 略号A_aで表わされる少なくとも1種の多官能性モノマー

(ここで、Aはカルボン酸タイプの官能基を表わす)；

(III) 略号B_bで表わされる少なくとも1種の多官能性モノマー

(ここで、Bはアミンタイプの官能基を表わす)；

から誘導される巨大分子単位を含むコポリアミドであって、

前記官能基A及びBは互いに反応してアミド単位を形成することができるものであり、

a及びbは次の関係：

・ a 2

・ b 2

・ もしbが2ならばa 3

・ もしaが2ならばb 3

を満たすようにように選択され、

比 $a x / (a x + b y)$ が 0.4 ~ 0.6 の範囲であり、ここで、xはモノマー(II)のモル数を表わし、yはモノマー(III)のモル数を表わし、

比 $(a x + b y) / \lfloor (a + b) * (x + y + 0.9 z) \rfloor$ が 0.12 より小さく、ここで、zはモノマー(I)のモル数を表わす、

前記の巨大分子単位を含むコポリアミド。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 8】 押出成形装置中で少なくとも以下の 3 種の化合物：

・化合物 (I)：次式 (c)：

- [NH - R₁ - CO] - (c)

の繰返し単位を含有するポリアミド；

・化合物 (II)：上で定義したモノマー (II)；

・化合物 (III)：上で定義したモノマー (III)；

{ここで、比 $ax / (ax + by)$ は 0.4 ~ 0.6 の範囲であり、

ここで、x は化合物 (II) のモル数を表わし、

y は化合物 (III) のモル数を表わし、

比 $(ax + by) / \lfloor (a + b) * (x + y + z) \rfloor$ は 0.3 % より小さく、好ましくは 0.2 % より小さく、

ここで、z は化合物 (I) 中の繰返し単位のモル数を表わし、

基 R₁ は随意にヘテロ原子を含む炭化水素基である}

を混合することによって得られることを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のコポリアミド。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

この目的で、本発明は、少なくとも次のモノマー：

(I) 略号 A で表わされる少なくとも 1 種の二官能性モノマー；

(II) 略号 A_a で表わされる少なくとも 1 種の多官能性モノマー

(ここで、A はカルボン酸タイプの官能基を表わす)；

(III) 略号 B_b で表わされる少なくとも 1 種の多官能性モノマー

(ここで、B はアミンタイプの官能基を表わす)；

から誘導される巨大分子単位を含むコポリアミドであって、

前記官能基 A 及び B は互いに反応してアミド単位を形成することができるものであり、

a 及び b は次の関係：

・ a 2

・ b 2

・ もし b が 2 ならば a 3

・ もし a が 2 ならば b 3

を満たすようにように選択され、

比 $ax / (ax + by)$ が 0.4 ~ 0.6 の範囲であり、ここで、x はモノマー (II) のモル数を表わし、y はモノマー (III) のモル数を表わし、

比 $(ax + by) / \lfloor (a + b) * (x + y + 0.9z) \rfloor$ が 0.12 より小さく、ここで、z はモノマー (I) のモル数を表わす、

前記の巨大分子単位を含むコポリアミドを提供する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

本発明の 1 つの特徴に従えば、比 $(ax + by) / \lfloor (a + b) * (x + y + 0.9 * z) \rfloor$ は 0.12 % 未満、好ましくは 0.1 % 未満である。モノマー (II) 及び (III) を大量に使用すると、架橋したコポリマーがもたらされることがある。指標として、そして本発明を限定するものではないが、A B タイプのモノマーのモル数 z に適用される

0.9 のファクターは、モノマー (I) が一般的に完全には反応しないということを考慮している。かくして、上記の比は、ポリアミド中のモノマー (II) 及び (III) のモル数と繰返し単位のモル数との間の比に近似する。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

かくして、コポリアミド又はコポリアミドを含む組成物を製造するための方法であって、押出成形装置中で少なくとも以下の3種の化合物：

・化合物 (I)：次式 (c)：

- [NH - R₁ - CO] - (c)

の繰返し単位を含有するポリアミド；

・化合物 (II)：上で定義したモノマー (II)；

・化合物 (III)：上で定義したモノマー (III)；

{ここで、比 $ax / (ax + by)$ は 0.4 ~ 0.6 の範囲であり、

ここで、x は化合物 (II) のモル数を表わし、

y は化合物 (III) のモル数を表わし、

比 $(ax + by) / [(a + b) * (x + y + z)]$ は 0.3% より小さく、好ましくは 0.2% より小さく、

ここで、z は化合物 (I) 中の繰返し単位のモル数を表わし、

基 R₁ は随意にヘテロ原子を含む炭化水素基であり、

z は次のように定義される：

$z = m_D / M_D$

ここで、m_D は用いられる化合物 (I) の質量であり、

M_D は繰返し単位のモル質量である }

を混合することから成る、前記方法が提供される。